

| | | | | | | | | | | |
|-----|---|----|---------|-----|---------|----|------|----|----|-------|
| No. | ⑭ | 分類 | 2-(2)-ア | 資料名 | めぐり来る夏に | 学年 | 2・3年 | 領域 | 道徳 | 4-(3) |
|-----|---|----|---------|-----|---------|----|------|----|----|-------|

1 ねらい

- 現在もなお残る部落差別の現実に触れ、その解決に向けて様々な努力がなされていることを知る。
- 差別を解消するために取り組んできた人たちの姿から、差別を見抜く力を養い、差別のない社会を構築するために行動しようとする意欲を高める。

2 趣旨

- 本資料は、日航機墜落事故の犠牲者となった田中愛子さんが、差別に負けずに強く優しく生きた姿と、その家族が、遺族としての悲しみの中にありながら周囲の人への思いやりをもって生きる姿を知り、自分の生き方を考えようとする「私」の心を描いている。
- 自分と同世代の「私」の考えに対しては、生徒も共感できる部分が多いと考えられる。自分たちの世代で差別を解消しようとする意欲を高めたい。

3 配慮事項

- 日航機墜落事故や慰霊登山の様子を写真や記事などで取り上げ、遺族の心に寄り添いながら学習する。
- 田中さんの手記「娘の遺してくれたもの」等も事前学習などで活用するとよい。
- 生徒の同和問題についての理解度によっては、社会科と関連づけて指導を行う。

4 展開例

| 学 習 内 容 | 指 導 上 の 留 意 点 |
|---|---|
| 1 御巣鷹山の日航機墜落事故について知る。 2 「私」が田中さんの手記を読み、感じたことや考え方が変化したことについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">田中さんの手記を読んだ「私」はどんなことを考えたのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・世の中には、部落差別がまだある。このままでよいのか。 ・人権学習交流会での報告を思い出して腹が立った。 ・愛子さんたちは、差別に関係なく本物の愛で結ばれていたんだ。 ・部落差別について自分でもっと調べたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・当時の写真や慰霊登山の記事等で、事故の悲惨さと、遺族の悲しみが今も続いていることを知らせる。 ・差別が今も残ることを知り、またそれを乗り越える人の存在を知ったことで、考え方が変わっていったことを認識させる。 ・今の自分と同じ中学3年生の意見であり、自分の考え方と比較しながら考えさせたい。 |
| 3 手紙に対する田中さんの言動について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">田中さんの「犠牲者なのです。」という言葉が「私」はどんな思いで聞いたのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜもっと怒りをあらわにしないのだろう。 ・田中さんは、差別や差別を残す「社会」に怒りを覚えている。 ・田中さんは、差別する人も正しく知ることによって変わっていくと信じている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・手紙に対する憤りを感じさせたい。 ・そうした田中さんの考え方や生き方が多くの人の共感を生み、差別解消への力となっていることに気づかせたい。 ・自分の生き方や考え方への自信から生まれる言葉であることを理解させたい。 |
| 4 差別の解消のためにできることを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">差別のない社会をつくるために、自分にできることは何ですか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・何が正しいのか、自分で調べ判断する。 ・正しいと思うことを行動に移す勇気をもつ。 ・いろいろな人権課題に関心をもつ。 ・自分に自信がもてるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・三木市の取組をはじめ、差別をなくすための様々な取組があり、確実に成果をあげていることを認識し、明るい展望をもたせたい。 ・正しい認識と行動をもって生きていくことが、誇り高い生き方であることを認識させたい。 |

5 参考

- 本資料は丹波市内の大学生が中学3年生の時に書いた作文をもとに作成したものである。
- 本資料中の「愛子先生へ」は、現在西宮市で勤務する中学校教員によるメッセージである。

1985（昭和60）年8月12日、娘が日航機墜落事故で遭難した。娘は中学校で体育の教師をしていた。御巢鷹山の山奥で、傷があれば自分で止血し、夜露を飲んででも、必ず生きているにちがいない。そう信じて現地に馳せつけた。事故は凄惨を極め想像を絶していた。バラバラ遺体の中を気が狂ったように探し求めてわが子にやっと巡り会えたのは7日目であった。

「どんなに変わり果てた姿であろうと、せめて一晩わが家の畳の上に寝かせてから葬ってやりたい。」そういう妻を説いて、遠い高崎の地で茶毘にふした。来春の結婚に夢見たであろうウェディングドレスを着せ、好きだったテニスのボールを左手に握らせて。一条の煙と共に白骨と化したその遺体を抱きしめた時、とめどなく流れる涙と共に「よう帰ってきたのう。」と思わず微笑んだ私。その時、一緒に同道した婚約者の姿がいじらしかった。彼はこの事故の一ヶ月ほど前に「愛子さんとの結婚を認めてください。」とわが家を訪れた。「うちは同和地区ですよ。」と言うと、「愛子さんから聞いています。両親が、お盆にお願いにくるはずです。」これが彼と交わした最初の会話であった。

そして、奇しくも遺体収容の藤岡市の体育館で両家の親が対面した。私が同和問題に触れたとき、彼のお父さんは「私は教師です。少なくとも人様に平等を説く人間として、自分を偽るようなことはようしません。」と言われた。私は返す言葉もなかった。娘の縁談を聞いたとき、「それでも親戚の中には反対の人がいるかもしれない。」「娘が先々思い悩むのでは。」と、あれやこれや思い過ぎしていた自分が恥ずかしかった。こんなお父さんや彼だからこそ、「私部落の生まれなんよ。」と重い言葉を打ち明けることができたのだろう。「これからも息子を、お宅の家族の一員に加えてお付き合いさせてください。」とお父さんはおっしゃった。

お盆休みの休暇が切れ、いくら勤めても彼は職場に帰ろうとしなかった。疲れ果てた妻の肩をもみ、私に濡れたタオルを絞り、買い物や電話の対応や、遺体の確認に奔走してくれた。四十九日がすんでから、彼は畳半分もある大きな娘の肖像画を持ってきた。娘の面影がそこに鮮やかに描かれていた。「仕事の合間に毎晩絵筆をとる間だけが心休まる時なんです。愛子さんに会いたくなれば、この絵を見にきます。」と四十九日の一つの区切りに思いを断ち切らせたいと願った私だったのだが、11月の連休には、彼が泊りがけでやってきた。生まれて初めての、稲刈りや脱穀を手伝ってくれた。「これで来年田植えをすれば、僕もひとかどのお百姓さんになれますかね。」とも言った。あれから数ヶ月、やがて田植えの時期がやってくる。

遺体が見つかるまでの一週間、娘が神戸を発つときの服装や持ち物、歯型などの情報を持って、数人の友達が阪神や和歌山から駆けつけてくれた。いずれも大学時代やその後のスポーツ仲間だった。葬式がすんでからも四国や岡山から友達が訪ねてきた。友情とは何なのか。愛とはいったい何なのか。ひとかどに愛の道を人に説いてきた私に果たしてそれができるのか。愛とは人に説くことではなく行うことなのだ。それを私は教えられた。

人に命には限りがある

だから自分の思うように生きたい

人は軽く、十年先、二十年先を口にするけれど

そのときを大切にしなければ

今、光っていたい

娘の絶筆である。「今、光っていたい」の思いを遺して娘は還らぬ人となってしまった。朝夕仏壇に合掌するたびに、唱えるべきお経を知らない私は、この詩を口ずさむ。いつの間にかフシのつくようになった詩を口ずさみながら、私は水平社宣言のさいごにある「人の世に熱あれ、人間に光あれ」の西光万吉の言葉とが、重なり合って今日も静かに手を合わせる。

人を愛し愛される人に 育てよと 名づけし、「愛子」空に散り逝く

今、光っていたい

- | | |
|---|--|
| <p>1 時間は 悲しみや苦しみをやわらげて 涙をため息にかえてくれる そう信じます 人の心は翼をもっていて 人の命には限りがある だからこそ自分の思うように生きたい 人は軽く、十年先、二十年先を口にするけれど その時を大切にしなければ 今、光っていたい</p> | <p>3 今、光っていたい、そんな思いを残して 娘は26才の生涯を閉じた 娘よ、お前はそんなに光っていたかったのか 娘よ、お前から光を決して消しはしない 暗闇の仏間に今日も灯りをつける お前の小さな灯りが やがて燎原の炎となって この世から差別がなくなるその日まで 娘よ燃え広がれ 娘よ光るがいい</p> |
| <p>2 「一日一生涯」とお前は言った その時、その一日を精一杯生きていたいと 被差別部落に生まれて 人に後ろ指さされるような 恥ずかしい生き方はしたくないと 人としての誇りに生き抜きたいと 私は今、光っていたい</p> | <p>4 心は翼をもっていて 娘は私に語り続けてくれる 「お父さん 悲しみや苦しみを乗り越えて 今、光っていたい 私の思い 人に伝えてね みんなに伝えてね お父さん 年老いたなんて言わないで お父さん」</p> |